

藤原工業大學ヲ大學令ニ依リ設
立スルノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十四年五月二十四日

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎



文第 三四號

起 昭和十四年五月二十三日

裁可 昭和十四年五月廿五日 施行

昭和高年五月廿五日 指令

内閣總理大臣

正

内閣書記官長



内閣書記官



別紙文部大臣上奏藤原工業大學ヲ
大學令ニ依リ設立スルノ件ハ相當ノ
儀ト被認ニ付上裁ヲ經テ左ノ通
指令相成然ルベシ

指令案

藤原工業大學ヲ大學令ニ依リ
設立スルノ件上奏ノ通裁可ヲ經
タリ

神專一—號

財團法人藤原工業大學ニ於テ大學令ニ依リ藤原工業大學
ヲ設立スルノ件謹而 宸裁ヲ仰ク

昭和十四年五月十九日

文部大臣 男爵 荒木 貞夫



文部省

音 音 音 音

藤原工業大學設立要綱

一、名 稱

藤原工業大學

二、目 的

大學令ニ依リ工學ノ理論及應用ヲ教授シ並ニ其ノ蘊奧ヲ攻究シ國
家ノ指導的人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス

三、學部ノ種類及名稱

工 學 部

(機械工學科、電氣工學科、應用化學科)

四、大學豫科及研究科ノ設否

大學豫科及研究科ヲ設ク

文 部 省

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

五學 則 (別紙)

六學科課程

(學則第八條、第九條、第十條及第二十二條)

七修業年限

學 部 三年

大學豫科 三年

研究科 一年以上

八入學資格

學 部

本大學豫科修了者

但シ缺員アル場合ニ限り左ノ者ヲ試験ノ上第一學年ニ入學

⑤

ヲ許スコトアルヘシ

高等學校高等科卒業者、大學豫科修了者、大正七年文部省令

第三號第二條ニ依リ指定ノ學校卒業者

大學豫科

(一) 中學校第四學年修了者

(二) 高等學校尋常科修了者

(三) 高等學校高等科入學資格試験合格者

(四) 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年修了者ト同等以上ト指定シタル者

(五) 專門學校入學者檢定試験合格者

(六) 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業生ト

同等以上ト指定シタル者

研究科

學部卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ教授會ニ於テ適當ト認メタル者

九學士稱號

工學士

一〇、授業料其ノ他

大學豫科	學部	授業料	實驗費	入學金	入學試験料
一五〇圓	一七〇圓				
第二、三學年	機械、電氣 應用化學		四〇〇圓 六〇〇圓	二〇圓	五圓
				二〇圓	五圓

研究科 一七〇圓 (別ニ各科ノ定ムル研究費ヲ徴ス)

但シ前記學部ノ入學金、入學試験料ハ本大學豫科修了者ヨリハ徴セス

一、位置及校地 (運動場ヲ含ム)

校地ハソノ購入費トシテ五十萬圓ヲ豫定セル處、目下選擇中ナル

ニ依リ假校地トシテ左ノ慶應義塾大學豫科校地ヲ一時借用ス

(一) 位置 横濱市港北區日吉町

(二) 面積 二一、八〇〇坪 内建坪二、〇二七坪

(三) 地質、附近ノ狀況、飲料水ノ定性分析表 (略)

一、三、校舎

校舎建築費トシテ (建物附屬設備費ヲモ含ム) 百九十萬圓ヲ豫定

セル處ソノ設計ニ關シテハ目下研究中ニ屬シ假校舍トシテ左ノ慶應義塾大學（醫學部）豫科校舍ノ一部ヲ借用ス

(一) 位置 前項校地ノ位置ト同ジ

(二) 構造 鐵筋コンクリート造四階建（外ニ地階）

(三) 面積 一、三五四坪

一階、二階、三階 各三九六坪

四階 一二七坪

地階 三八坪五

(四) 教室及實驗室等

普通教室 九室（各室一八坪五）

大教室 二室（各室三四坪）

特別教室 三室（各室三三坪）

實驗室 三室（一室八六坪、二室各四五坪）

外ニ天秤室、藥品室、標本室、機械室、準備室、讀書室、教

員室等アリ

(五) 慶應義塾大學醫學部豫科現在學級數

九 學 級

(六) 尙近ク三田ニ在ル慶應義塾大學ノ不使用木造二階建校舎二棟

（延坪四一八坪五）ヲ前掲ノ位置ニ移轉シ藤原工業大學豫科

ニ貸與スル計畫アリ

一三圖 書

學部用ノ圖書費トシテ特ニ昭和十五年度十六年度ニ於テ各五萬圓

宛經常費中ヨリ支出スル外毎年度相當金額ヲ圖書費トシテ豫算ニ計上ス

一四 學生生徒定員

學部 五四〇名 (三學級 機械一六五名、電氣一六五名、應化一五〇名)
大學豫科 四八〇名 (十二學級 一學級四〇名)

一五 教員

學部 六一名 專任三六名 兼任二五名
大學豫科 二六名 專任一四名 兼任一二名

一六 開設期日

大學豫科 昭和十四年六月
學部 全 十七年四月

一七 創設費豫算表

研究科 全二十年四月

經常費不足額填補基本金 四、〇〇〇、〇〇〇圓

土地購入費 五〇〇、〇〇〇圓

學部及豫科建物 (坪單價約三〇〇圓) 一、三五〇、〇〇〇圓

建物附屬設備費 (建物費ノ約三割) 四〇〇、〇〇〇圓

學部附屬建物費 (坪單價一〇〇圓) 一五〇、〇〇〇圓

研究及實驗設備費 一、五〇〇、〇〇〇圓

教練及體育設備費 一〇〇、〇〇〇圓

合計 八、〇〇〇、〇〇〇圓

右創設費ノ拂込方法、使途、支拂金額等ヲ年度別ニ掲グレバ左ノ

通り

年	度	拂込金額	使途項目	支拂金額	差引残高
一	年	二、〇〇〇、〇〇〇圓	土地購入	五〇〇、〇〇〇圓	一、五〇〇、〇〇〇圓
二	年	二、〇〇〇、〇〇〇圓	体豫 育科 施設	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓
三	年	二、〇〇〇、〇〇〇圓	豫 科 建築	二、五〇〇、〇〇〇圓	四、九〇〇、〇〇〇圓
四	年	一、〇〇〇、〇〇〇圓	學 部 設備	七、五〇〇、〇〇〇圓	四、四〇〇、〇〇〇圓
五	年	一、〇〇〇、〇〇〇圓	學 部 設備	七、五〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇〇、〇〇〇圓
計		八、〇〇〇、〇〇〇圓		四、〇〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇〇、〇〇〇圓

(備考)
 第四年度以降學部本延築竣工迄學部ニ使用スベキ校舍ハ便宜慶應
 義塾大學子校舍ノ一部ヲ借用スルモノトス
 一八、基本財産供託方法
 (基本金)

基本金四百萬圓中六十五萬圓ヲ大學設立認可後三週間以内ニ左ノ

證券ヲ以テ供託スルモノトス

王子製紙株式會社、新株式、一二、五〇〇株

壹百株券、一二五枚 六十五萬圓(時價)

而シテ設立者ハ右供託金中二十五萬圓以上ヲ設立認可ノ日ヨリ二
 年以内ニ必ス國債證券ニ替フルコトヲ約ス

一九、經費及維持ノ方法

本學ハ授業料、供託金及基本金ノ利子其ノ他ノ收入ヲ以テ維持ス
 設立以後完成年度迄ノ經常部歳入出豫算ヲ掲グレバ次ノ通り

滋 賀 県 立 大 学

収入ノ部

科目	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度	昭和十七年度	昭和十八年度	昭和十九年度	備考
授業料	24000	42000	47000	102600	133100	163800	
入學試験料	10000	10000	10000	10000	10000	10000	
入學料	5100	5100	5100	5100	5100	5100	
實驗料		5100	6000	14500	22600	30700	
雑收入						21000	
基本金 （積立金） （積立金）		75000	127500	225000	220000	100000	
合計	37200	139400	249100	375300	389000	429700	

七 三 七

科目	教員俸給		事務員給料	補助員給料	雇員給料	年末手当	研究費	事務費
	學科	豫科						
昭和十四年度	專 二〇〇〇〇	兼 一八〇〇〇	二六〇〇		一五〇〇	四八〇	一〇〇〇	三〇〇〇
昭和十五年度	專 二〇〇〇〇	兼 三〇〇〇〇	三九〇〇		一〇〇〇	五三三	五〇〇〇	五〇〇〇
昭和十六年度	專 三三〇〇〇	兼 三〇〇〇〇	五二〇〇		一〇〇〇	六〇〇	六〇〇〇	三〇〇〇
昭和十七年度	九八〇〇〇	三八六〇〇	九二〇〇	六〇〇〇	九〇〇〇	二四〇〇〇	六五〇〇〇	六〇〇〇〇
昭和十八年度	一三三三〇〇	三八六〇〇	九二〇〇	八〇〇〇	一四〇〇〇	三〇〇〇〇	八〇〇〇〇	七〇〇〇
昭和十九年度	一六三〇〇〇	三八六〇〇	九二〇〇	一〇〇〇〇	一五〇〇〇	三六〇〇〇	一一六〇〇〇	八〇〇〇

支出ノ部

部

土地建物設備費	體育費	圖書費	豫備費	積立金	合計
三〇〇〇	二五〇〇	一〇〇〇	一三二〇		三七二〇〇
五五〇〇	五〇〇〇	豫 二〇〇〇 學 五〇〇〇	六六六七	二〇五〇〇	一三九四〇〇
四〇〇〇	五〇〇〇	豫 一〇〇〇 學 五〇〇〇	一六八〇〇	一〇〇〇〇〇	三七五三〇〇
八〇〇〇	六五〇〇	六五〇〇		九八六〇〇	三八九〇〇〇
一〇〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇		四二八〇〇	四二九七〇〇
一四〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇			

二〇、大學長
小泉 信 三
二、昭和十四年度授業日數實施計畫

年 月 授業日數 祝 祭 日 備 考

七 B 省

昭和十四年六月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭和十五年一月
六月十七日	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	三月
二一	二六	二一	二六	二五	二四	二〇	二二	二二	二〇三	二〇三
六月十七日 開校記念日			九月二十四日(日) 秋季皇靈祭	十月十七日 神嘗祭	十一月三日明治節 十一月二十三日新嘗祭	十二月二十五日 大正天皇祭	一月十日 福澤先生記念日	二月十一日(日) 紀元節	三月二十一日 春季皇靈祭	三月十八日ヨリ學年試験開始
六月十八日ヨリ第一學期授業開始		八月十四日ヨリ學期試験開始 八月十九日ヨリ夏期休業	九月一日ヨリ第二學期授業開始			十二月二十六日ヨリ學期試験開始	一月六日ヨリ第三學期授業開始			

二、財團法人藤原工業大學概要

同	二月	二五	二月十一日(日) 紀元節	
同	三月	一四	三月二十一日 春季皇靈祭	三月十八日ヨリ學年試験開始
合計		二〇三		

(一) 目的 工学ニ關スル教育及研究ヲ以テ目的トス

(二) 名稱 財團法人藤原工業大學

(三) 事業 藤原工業大學ヲ經營ス

(四) 事務所 横濱市港北區日吉町六六五番地慶應義塾内

(五) 役員

理事 三名以上七名以内(内一名ヲ理事長トス)

監事 二名

評議員 十五名以内

(六) 資産

八百萬圓

但シ昭和十四年度ヨリ十六年度迄毎年度二百萬圓宛、昭和十七、十八年度各百萬圓宛寄附

昭和十八年度末ニ於テ四百萬圓ノ基本金ヲ造ルモノトス

(七) 設立當初ノ理事

藤原銀次郎 (理事長)

貴族院議員

小泉 信三

慶應義塾々長、同大學長

榎 智雄

慶應義塾理事、同大學教授

(八) 解散ノ場合ノ財産處分

慶應義塾ニ寄附ス

(九) 設立者タル理事長 (藤原銀次郎) 辭任又ハ死亡ノ場合

役員ハ全員當然退任シタルモノトシ慶應義塾々長ニ於テ其ノ後任者ヲ選定シ併セテ寄附行爲ノ規定ニ依リ設立者ニ屬スル一切ノ權限ヲ繼承ス

以上

學

則

學

則

學

藤原工業大學學則

第一章 編成 修業年限

第一條 本大學ハ大學令ニ依リ工學ノ理論及應用ヲ教授シ並ニ其ノ蘊

奥ヲ攻究シ國家ノ指導的人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 本大學ニ工學部及研究科ヲ設ケ大學豫科ヲ併置ス

豫科ハ高等普通教育ヲ施スト同時ニ學部ニ入ルニ必要ナル豫
備學科ヲ教授ス

第三條 修業年限ハ豫科三年、學部三年、研究科一年以上トス

第二章 學年 學期 休日

第四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期 自四月一日 至八月三十一日

第二學期 自九月一日 至十二月三十一日

第三學期 自一月一日 至三月三十一日

第六條 休日ハ左ノ如シ

一 日曜日 大祭祝日

一 福澤先生記念日 一月十日

一 開校記念日 六月十七日

一 春季休業 自四月一日 至四月十日

一 夏季休業 自七月十一日 至九月十日

一 冬季休業 自十二月二十六日 至一月七日

第三章 學科課程 試驗

第一節 學部

第七條 學部ニ機械工學科、電氣工學科及應用化學科ヲ設ク

第八條 授業學科目及其ノ單位數左ノ如シ

數 學(四) 實驗物理學及同實驗(四)

應用物理學(二) 應用力學(二)

應用彈性學(二) 振動學(二)

流体力學(二) 熱力學(二)

電氣磁氣學(三) 應用×線工學(一)

結晶學(一) 物理化學(四)

有機化學(三)	技術史(一)
工場經營(二)	工場衛生(一)
經濟學概論(二)	法制大意(一)
機構學(二)	機械力學(二)
金屬材料 <small>(及組織學)</small> (二)	金屬材料及組織學特論(二)
機械製作法(二)	機械設計(二)
水力學及水力機(二)	蒸汽罐及蒸汽機關(二)
蒸汽タービン(一)	内燃機關(二)
工作機械(二)	航空原動機(二)
自動車工學(二)	鐵道車輛(二)

材料運搬(一)	精密工作及測定(二)
暖房及換氣(一)	冷凍及冷蔵(一)
織維工業大意(一)	製紙工業大意(一)
製糖工業大意(一)	機械設計及製圖第一部(機)(六)
機械製圖(機)(四)	機械工學實驗(機)(三)
應用力學演習(機)(一)	機械工學輪講(機)(一)
機械工作實習(機)(二)	機械工學實習(機)(二)
原動機大意(二)	機械製作法大意(二)
機械設計及製圖第二部(二)	交流理論(一)
電氣回路理論(二)	電氣磁氣測定法(三)

電氣機械器具第一(一)	全	上	第二(三)
電力輸送及配電(一)	發電所及變電所(二)		
電氣鐵道(一)	照明工學(一)		
應用電氣學(一)	電信及電話(一)		
高周波電氣工學第一(一)	全	上	第二(一)
電子工學(二)	電氣磁氣特論(一)		
電氣材料(一)	電氣工學設計第一部(電)(二)		
全	上	第二部(電)(二)	一般電氣工學實驗(電)(三)
電氣工學實驗第一部(電)(四)	電氣工學實驗第二部(電)(四)		
電氣工學製圖第一部(電)(三)	電氣工學製圖第二部(電)(二)		

電氣工學實習(電)(二) 電氣工學輪講(電)(一)
 電氣工學汎論(二) 電氣工學各論(二)
 實驗電氣工學及同實驗(機)(二) 工業化學無機(三)
 工業化學有機(四) 化學工學(四)
 電氣化學(三) 定量分析(化)(四)
 定性分析(化)(四) 工業分析(化)(二)
 物理化學實驗(化)(二) 有機化學實驗(化)(二)
 工業化學實驗第一部(化)(二) 工業化學實驗第二部(化)(二)
 應用化學輪講(化)(一) 化學工業概論(二)
 一單位にハ原則トシテ講義ニアリテハ一週一時間ニ、實驗實
 習製圖及演習ニアリテハ一週二時間ニ該當ス

第九條

各學科ニ必修學科目ヲ設ケ左表ノ如ク各年度ニ配當ス

第二年度ニ配當セラレタル必修學科目ヲ履修スルタメニハ第一年度ニ配當セラレタル必修學科目ニ就キ全單位數ノ四分ノ三以上ニ合格スルヲ要ス、但シ第三年度ニ配當セラレタル學科目ハ之ヲ第二年度ニ於テ履修スルヲ妨ケス

機械工學科必修學科目

數 學	學 科 目	第一 年 度	應 用 物 理 學	學 科 目	第二 年 度	化 學 工 業 概 論	學 科 目	第三 年 度
	單 位	三		單 位	二		單 位	二

機械設計	機械製作法	金屬材料及 組織學	機械學	熱力學	應用力學演習	應用力學	實驗物理學 及同實驗
二	二	二	二	二	一	二	四
				機械工學輪講	電氣工學汎論	金屬材料及 組織學特論	振動學
				一	一	二	二
				機械工學實習	工場衛生	工場經營	經濟學概論
				二	一	二	二

電氣工學科必修學科目

學科目	單位	第一年度
數學	三	四
物理學 及實驗 同實驗	四	四
學科目	單位	第二年度
電子工學	二	二
電氣回路 理論	二	二
學科目	單位	第三年度
化學工業概論	二	二
經濟學概論	二	二

機械製圖	機械工作實習
四	二

機 構 學	電 氣 機 械 器 具 第 一	電 氣 磁 氣 測 定 法	交 流 理 論	電 氣 磁 氣 學	振 動 學	應 用 力 學	應 用 物 理 學
二	一	三	一	三	二	二	二
				電 氣 工 學 輪 講	機 械 製 作 法 大 意	電 氣 材 料	電 氣 機 械 器 具 第 二
				一	二	一	三
					電 氣 工 學 實 習	工 場 衛 生	工 場 經 營
					二	一	二

一般電氣工學實驗

三

應用化學科必修學科目

第一年度		第二年度		第三年度	
學科目	單位	學科目	單位	學科目	單位
數學	三	物理化學	四	化學工業概論	二
實驗物理學及同實驗	四	物理化學實驗	二	經濟學概論	二
應用力學	二	化學工學	四	工場經營	二
有機化學	三	應用化學輪講	一	工場衛生	一
有機化學實驗	二	機械製作法大意	二		

定量分析	四				
定性分析	四				

第十條 必修學科目以外ノ學科目ハ任意ニ選擇スルコトヲ得、但シ實驗
 實習製圖及演習ニシテ第八條記載ノ學科目ニ學科名ヲ記註セル
 モノニ就キテハ當該學科所屬學生ノ履修ニ妨ナキ場合ニ限ル
 豫メ準備學科目ヲ履修スルヲ要スル學科目ニ就キテハ左ノ如ク
 之ヲ定ム

學 科 目	準備學科目	備 考
蒸 汽 機 關 蒸 汽 機 及 蒸 汽 機 關	熱 力 學	

電氣工學實驗 第一部	電氣磁氣特論	電氣機械器具 第二	機械設計及製圖 第一部	精密工作及測定	鐵道車輛	自動車工學	航空原動機	內燃機關	蒸汽タービン
一般電氣工學 實驗	電氣磁氣學	電氣機械器具 第一	製圖 機械設計、機械	機械製作法	蒸汽爐及蒸汽 機關	內燃機關	內燃機關	熱力學	熱力學

電氣工學實驗 第二部	一般電氣工學 實驗	
電氣工學各論	電氣工學汎論	
電子工學	電氣磁氣學	
電氣回路理論	交流理論	

第十一條 學生ハ其ノ履修セントスル學科目ヲ每學年所定ノ期限内ニ届出
テ許可ヲ受クヘシ

一箇年ニ履修スヘキ學科目ハ必修學科目ヲ併セテ三五^ノ單位ヲ越
ユルコトヲ得ス

第十二條 實驗實習製圖及ヒ演習ニ關シテハ定員ニ餘裕アル場合ニ限り第

十條ニ指定セル學科以外ノ學生ノ履修ヲ許可ス

第十三條 試験ハ各學年末ニ其ノ學年内ニ履修セル學科目ニツキ之ヲ行フ、
但シ學科目ノ種類ニ依リテハ本條ノ規定ニ拘ラス試験ヲ行フコ
トアルヘシ

第十四條 學生ハ第十一條ノ規定ニヨリ届出タル學科目ニ限り試験ヲ受ク
ルコトヲ得

第十五條 實驗製圖實習及演習等ノ學科目ニ就^キテハ其ノ平常成績ヲ以テ試
験ニ代^フルコトアルヘシ

第十六條 病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ニ由リ試験ヲ受クルコトヲ得サリ
シ者ニ對シテハ追加試験ヲ行フ、但シ前條ノ考査ヲ以テ試験ニ

代へタル場合ハコノ限りニアラス

第十七條 學業成績ノ評語ハ優・良・可及不可ノ四種トシ優・良・可ヲ合格、不可ヲ不合格トス、追加試験ヲ受ケサリシ學科目ハ之ヲ不合格トス

第十八條 卒業試験ハ論文又ハ計畫ニ就キテ隨時之ヲ行フ

第十九條 卒業試験ヲ受ケントスルモノハ其ノ題目ヲ定メ十箇月以前ニ學科主任ヲ經テ之ヲ學長ニ申出テ指導教授ノ指定ヲ受クルヲ要ス

第二十條 二ケ年以上在學シ當該學科所屬ノ全必修學科目ヲ併セテ四十^五位以上ノ學科目試験ニ合格シタルモノハ卒業試験ヲ受クルコトヲ得

第二十一條

三ヶ年以上在學シ當該學科所屬ノ全必修學科目ヲ含ミ五十^五單位以上ノ學科目試驗ニ合格シ且卒業試驗ニ合格シタルモノヲ卒業トス

第二節 豫科

第二十二條

豫科學科目及毎週授業時間數左ノ如シ

學科目	修身	國漢文及作文	第一外國語	授業時數		
				第一學年	第二學年	第三學年
	一	二	八			
	一	二	六			
	一		六			

文化問題	圖書	法制及經濟	心理	礦物及地質	植物及動物	化學	物理	數學	第二外國語
一	二		二		二	二		六	四
	二	三		二		三	三	五	四
	二	三				四	四	三	四

計	體 (教 練) 操	哲 學
三三	三	
三四	三	
三四	三	一

第三學年(三)ハカテトス
外國語ハ第一外國語ヲ英語トシ第二外國語ヲ獨語又ハ佛語トス

第二外國語ヲ履修セサルモノニハ英語ヲ課ス

第二十三條 各學期末ニ其ノ學期間ニ履修セル學科ノ試験ヲ行フ

第二十四條 各學期末試験ハ左ノ期日前ニハ施行セサルモノトス

第一學期 七月 一日

第二學期 十二月十日

第三學期 三月 五日

第二十五條

各學科ノ日課成績及學期末試験ノ成績ニヨリテ學期評點ヲ定

ム

第二十六條

教員ノ必要ト認メ施行シタル臨時試験ノ評點ハ前條ノ評點中

ニ算入スルモノトス

第二十七條

各學科ノ學期評點ヲ平均シテ其ノ學年評點ヲ定ム、但シ全學

年ニ通セサル學科ハ履修セル學期ノ評點ヲ平均シテ其ノ學年
評點トス

第二十八條

學業成績ノ評語ハ優・良・可及不可ノ四種トシ優・良・可ヲ

合格、不可ヲ不合格トス

第二十九條

各學科ノ學年評點滿點ノ六割以上ニシテ且四割以下ノ學科ナ

キモノヲ及第トス、但シ點數ハ公示セサルモノトス

第三十條 各學科ノ評點ハ十點ヲ以テ滿點トス

第三十一條 正當ノ事由ナクシテ出席常ナラサル者ハ受験資格ヲ失フコトアルヘシ

第三十二條 病氣又ハ正當ノ事由ノタメ學期末試験ニ缺席シタル者ニシテ其ノ旨届出アリタル者ニ限り左記ノ通り追加試験ヲ施行ス

第一學期缺席者ニハ十月中

第二學期缺席者ニハ翌年二月中

第三學期缺席者ニハ五月中

第三十三條 追加試験ニ缺席シタル者ハ零點トシテ之ヲ取扱ヒ各學期評點

ヲ平均シテ學年評點ヲ定ム、但シ成績決定迄ハ未定ノ儘原級ニ止ムルモノトス

第三十四條

原級ニ止マリタル者ハ次學年ノ始ヨリ其ノ級ノ全學科ヲ再修セシムルモノトス

第三十五條

引續キ二回原級ニ止マリタル者ニハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第四章 入學 休學 退學

第三十六條

入學ノ期ハ學年ノ始メ一回トス

第三十七條

學部第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本大學豫科ヲ修了シタル者トス

但シ缺員アル場合ニ限り試験ノ上第一學年ニ入學ヲ許スコト
アルヘシ

高等學校高等科卒業者、大學豫科修了者、大正七年文部省令
第三號第二條第二號ニ依リ指定ノ學校卒業者

學部第一學年入學試験科目

英語、獨(佛)語、物理學、化學、數學

第三十八條

豫科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者左ノ如シ

中學校第四學年修了者、高等學校尋常科修了者、高等學校高
等科入學資格試験合格者、文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ
入學ニ關シ中學校第四學年修了者ト同等以上ト指定シタル者、

第三十九條

専門學校入學者檢定試験合格者、文部大臣ニ於テ一般ノ専門
學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ト指定シタル者
豫科第一學年ニ入學セントスル者ニハ選抜試験ヲ行フモノト
ス

選抜試験ハ學科、体格及人物考査トシ學科ハ中學校第四學年
修了程度ニ依リ行フ

農林業及普通教育部第四學年修了者、同卒業者及農林業遊藝工學
校卒業者ニシテ其ノ部主任ノ推薦アルモノニハ新試験ニテ入
學ヲ許可スルコトアルヘシ、但シ其ノ年度ノ修了者又ハ卒業
者ニ限ル

第四十條 入學志願者ハ所定ノ入學志願書ヲ差出スヘシ、入學志願書ニ
ハ志望學科ヲ記載シ履歷書、各學年成績證明書又ハ檢定證書
及寫眞ヲ添フヘシ

第四十一條 豫科第一學年ニ入學シタル者ハソノ志望學科ニ隨ヒ學部ヘ入
學スルモノトス

第四十二條 一旦退學セシ者再入學ノ場合ニハ一箇年以内ニ限り無試験ニ
テ原級ニ編入スルコトアルヘシ、但シ第一學期ニ在リテハ四
月八日迄、第二學期ニ在リテハ九月五日迄ニ出願スルヲ要ス
入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ入學金ヲ納ムヘシ、但シ本大
學豫科ヲ修了シタル者ハ學部入學金ヲ納ムルニ及ハス

第四十三條

第四十四條

入學ノ許可ヲ得タル者ハ所定ノ在學證書ヲ差出スヘシ、保證人ハ父兄若クハ近親タルヘシ、但シ遠隔ノ地ニ在ル者ハ別ニ本學所在地附近ニテ一家ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ本學ノ通知ニ接シ直ニ登校シ得ヘキ副保證人ヲ置クヘシ

第四十五條

保證人姓名ヲ改メ又ハ轉居シタル時ハ直ニ其ノ旨届出ツヘシ死亡其ノ他ノ事由ニヨリ保證人ヲ改メタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第四十六條

缺席者ハ保證人連署ニテ届出ツヘシ、病氣ノ爲缺席七日以上ニ亙ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第四十七條

疾病ノタメ三箇月以上登校スルコト能ハサル場合ニハ醫師ノ

診斷書ヲ添へ保證人連署ニテ願出テ其ノ學年間休學スルコト
ヲ得

兵役ニ服スル場合ハ保證人連署ニテ届出ツヘシ

第四十八條 正當ノ理由ナク一箇月以上引續キ缺席スルトキハ除名ス

第四十九條 退學セントスル者ハ保證人連署ニテ願出ツヘシ

第五章 卒業 學士稱號

第五十條 學部ニ三箇年以上在學シ所定ノ試験ニ合格シタル者ニハ卒業
證書ヲ授與ス

第五十一條 學部ヲ卒業シタル者ハ工學士ト稱スルコトヲ得

第六章 入學金 試験料 授業料其ノ他

第五十二條

入學金ヲ金貳拾圓トス

第五十三條

入學試験料ヲ金五圓トス、但シ一旦納入セル試験料ハ受験ノ有無ニ拘ラス一切返却セサルモノトス

第五十四條

追加試験料左ノ如シ

一豫科追加試験料ヲ金五圓トス

一學部追加試験料ヲ一科目ニツキ金參圓トス

第五十五條

學部ノ授業料ヲ一箇年金百七拾圓、豫科ノ授業料ヲ一箇年金百五拾圓トシ毎學期ノ始ノニ分納セシム

第五十六條

學部ノ實驗費ヲ機械、電氣工學科ニ在リテハ一箇年金四拾圓、應用化學科ニ在リテハ一箇年金六拾圓、豫科ノ實驗費ヲ第二

學年第三學年ニ於テ各一箇年金貳拾圓トシ每學期ノ始ノニ分
納セシム

第五十七條 學期ノ中途ニ於テ退學スルコトアルモ授業料・實驗費ハ一切
返却セサルモノトス

第五十八條 休學中ト雖モ授業料ハ之ヲ納ムルモノトス、但シ兵役ニ服ス
ル爲メ休學シタル者ニハ授業料ヲ徵收セス

第七章 懲 戒

第五十九條 懲戒ハ譴責・減點・停學・退學ノ四種トス

第六十條 左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ懲戒ス
一本學ノ秩序ヲ紊ス者

- 一 教職員ノ命令ニ逆ヒ又ハ器具ヲ汚損シ暴行ヲナシタル者
- 一 不品行ニシテ本學ノ体面ヲ汚ス者
- 一 怠惰ニシテ學業ヲ勉メサル者
- 一 出席常ナラサル者

第八章 外國人入學

第六十一條

第三十七條及第三十八條ニ依ル入學資格ナキ外國人ニシテ外

務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アル者ハ缺員アル場合ニ限り試験ノ上入學ヲ許スコトアルヘシ、但シ學部ノ入學ハ第一學年ニ限ル

第九章 聽講生

第六十二條

學部ニ於テ一科目又ハ數科目ノ聽講ヲ願出ツル者アルトキハ
學生ノ學習ニ妨ナキ場合ニ限り聽講生トシテ入學ヲ許スコト
アルヘシ

第六十三條

聽講生ハ志望學科ヲ學修シ得ルニ足ル學力アリト認メタル者
ニ限ル

第六十四條

聽講生ノ許可ヲ得タル者ハ所定ノ在學證書ヲ差出スヘシ

第六十五條

聽講生ハ正科生ト同額ノ授業料ヲ納ムヘシ尙研究ニ要スル實
驗費用ハ別ニ之ヲ納ムルモノトス

第六十六條

聽講生ハ正科生ト同シク一般ノ規則ヲ遵守スヘキモノトス

第十章 委託生

第六十七條

官廳、公共團體及其他ヨリ一箇年以上ヲ在學期間トシ履修ス
ヘキ科目ヲ定メ入學ヲ願出ツル者アルトキハ學生ノ學修ニ妨
ナキ場合ニ限り陰謀ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第六十八條

委託生ハ其ノ學修セシ科目ニ就キ試験ヲ受クルコトヲ得
試験ニ合格シタル者ニハ願ニヨリ證明書ヲ附與ス

第六十九條

委託生ノ授業料及實修實驗等ニ要スル費用ハ委託者ヨリ之ヲ
納付スルモノトス

第十一章 研究科

第七十條

學部卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ教授會ニ於
テ適當ト認メタル者ハ研究科ニ入り學術ヲ研究スルコトヲ得

第七十一條 研究科ニ入ラントスル者ハ研究科目、履歴書、戸籍謄本ヲ具シ願出ツヘシ

第七十二條 研究科學生ハ研究ニ關シ教授ノ指導ヲ受クヘシ

第七十三條 研究科學生ハ毎年一回以上其ノ研究ノ狀況及成績ヲ記載シタル報告書ヲ指導教授ヲ經テ學長ニ提出スヘシ

第七十四條 研究科學生ニシテ二箇年以上在學シタル者ハ研究ノ成績ヲ具シテ學位ヲ請求スルコトヲ得

第七十五條 研究科學生ハ在學料トシテ一學年金百七拾圓ヲ每學年ノ始メニ納ムヘシ

別ニ各科ノ定ムル研究費ヲ徴收ス

財團法人 藤原工業大學寄附行爲

第一章 總 則

第一條 本法人ハ工學ニ關スル教育及研究ヲ以テ目的トス

第二條 本法人ハ財團法人藤原工業大學ト稱ス

第三條 本法人ハ事務所ヲ横濱市港北區日吉町六百六十五番地
慶應義塾内ニ置ク

第四條 本法人ハ第一條所定ノ目的ヲ達スルタメ左ノ學校ヲ經營ス
一 藤原工業大學

第五條 本寄附行爲ハ理事會ニ於テ理事四分ノ三以上ノ同意アルトキハ主務官廳ノ認可ヲ經テ變更スルコトヲ得
但シ第二十四條及第二十五條第一項ハ變更スルコトヲ得ス

第二章 役員

第六條 本法人ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 理事 三名以上七名以内
内一名ヲ理事長トス
- 二 監事 二名
- 三 評議員 十五名以内

第七條 本法人設立當初ノ理事長ハ本法人ノ設立者藤原銀次郎
之ニ當ル

本法人設立當初ノ理事ハ設立者之ヲ選定ス
其後ノ理事ハ理事會ニ於テ之ヲ定ム

理事ハ互選ヲ以テ學長一名及常任理事若干名ヲ定ムルコト
ヲ得

第八條 理事長ハ本法人ヲ代表シ理事會ノ定ムル處ニ依リ本
法人ノ事務ヲ總理ス理事會ニ於ケル議長ハ理事長之ニ當ル理
事長事故アルトキハ理事會ニ於テ豫メ定メタル理事其ノ職
務ヲ行フ

第九條 學長ハ一切ノ教育事項ヲ總理ス

第十條 理事ハ理事會ヲ組織シ寄附行爲所定ノ事項並本法人事業執行上必要ト認ムル事項ヲ審議決定ス

第十一條 設立當初ノ監事ハ設立者之ヲ選定シ其後ノ監事ハ評議

員會ニ於テ之ヲ選定ス

監事ノ職務ハ民法ノ規定ニ依ル

第十二條 評議員ハ理事會ニ於テ之ヲ選定ス

評議員ハ評議員會ヲ組織シ監事ノ選任ヲ爲シ本法人ノ事業
ニ關スル報告ヲ受ケ本寄附行爲ニ關スル重要ナル事項ニ關
シ理事會ノ諮問ニ應シ又ハ意見ノ陳述ヲナスコトヲ得

第十三條 設立者タル理事長ヲ除ク役員ノ任期ハ四箇年トス

但シ再選ヲ妨ケス

補缺ニヨリ役員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第十四條 理事會ノ決議ヲ以テ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

第三章 會 議

第十五條 會議ハ理事會、評議員會トシ理事長之ヲ招集ス

第十六條 理事會ハ左記事項審議ノタメ之ヲ開ク

- 一 歳入歳出ノ豫算並決算
- 二 資産ニ關スル重要ナル事項
- 三 事業計畫
- 四 寄附行爲變更
- 五 評議員選任ニ關スル事項
- 六 其他重要ナル事項

第十七條 理事會ハ理事過半數出席スルニアラサレハ之ヲ開會
スルコトヲ得ス但シ第五條第七條第八條第十二條第二十
一條及第二十四條第一項所定ノ事項ヲ會議ノ目的トスル
場合ニハ理事四分ノ三以上ノ出席ヲ要ス
理事會ノ決議ヲ爲スヘキ場合ニ於テ理事全員ノ同意アル
トキハ前項ノ規定ニ拘ラス書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ
得

第四章 資産及會計

第十八條 藤原銀次郎ハ本法人ヲ設立センカ爲メニ金八百萬圓
ヲ寄附スルコトヲ約シ本法人ノ資産總額トス但シ藤原合
資會社又ハ他ノ特志者ヨリ寄附アリタルトキハ其金額ヲ
前記寄附總額ノ一部ニ充當スルコトヲ得

第十九條

本法人ノ資産ハ左ノ各號ヨリ成ル

- 一 財産目録記載ノ資産
- 二 寄附金
- 三 事業ヨリ生スル收入
- 四 其他ノ收入

第二十條

本法人ノ資産中左ノモノヲ以テ基本財産トス

- 一 財産目録記載ノ基本金、校地、校舎
- 二 基本財産タルコトヲ指定シタル寄附金
- 三 理事会ニ於テ基本財産ニ編入ヲ決議シタル資産

第二十一條 基本財産ハ處分スルコトヲ得ス但シ理事四分ノ三以上ノ同意ニ依ル理事會ノ決議ヲ得設立者ノ同意ヲ經テ主務官廳ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限りニ非ラス

第二十二條 本法人ノ經費ハ基本財産ノ元本以外ノ資産ヲ以テ之ヲ支辨ス歲計ニ剩餘金ヲ生シタルトキハ理事會ノ決議ニヨリ之カ處理ヲ定ム

第二十一條 基本財産ハ處分スルコトヲ得ス但シ理事四分ノ三以
上ノ同意ニ依ル理事會ノ決議ヲ得設立者ノ同意ヲ經テ主
務官廳ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限リニ非ラス

第二十二條 本法人ノ經費ハ基本財産ノ元本以外ノ資産ヲ以テ之
ヲ支辨ス歳計ニ剩餘金ヲ生シタルトキハ理事會ノ決議ニ
ヨリ之カ處理ヲ定ム

第二十三條 本法人ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五章 解散

第二十四條 本法人ハ法定ノ解散事由ニ依ルノ外其財産ヲ慶應義塾ニ寄附センカ爲設立者ノ意思ニヨリ理事會ノ決議ヲ經テ之ヲ解散スルコトヲ得

本法人カ解散シタルトキハ其全財産ハ第一條所定ノ目的ヲ遂行スルタメニ之ヲ慶應義塾ニ寄附スルモノトス

第六章 附 則

第二十五條 設立者藤原銀次郎カ理事長ヲ辭任シ又ハ死亡シタルトキハ之ト同時ニ役員ハ全員當然退任シタルモノトシ慶應義塾長ニ於テ其ノ後任者ヲ選定シ併セテ本寄附行爲ノ規定ニ依リ設立者ニ屬スル一切ノ權限ヲ繼承ス其後ノ役員ノ選定ニ付テハ第七條第十一條及第十二條ノ規定ニ依ル

本法人設立ノ際ニ於ケル理事ヲ左ノ如ク定ム

藤原 銀次郎
小泉 信三
榎 智雄

大學令 大正七年十二月六日 特令第一八八號 改正 昭和八年四月二十九日 文部省令第一二九號 昭和八年五月二十九日 文部省令第一三九號 昭和八年六月二十九日 文部省令第一四九號

第一條 大學ハ國家ニ必要ナル學術ノ理論及 應用ヲ教授シ其ノ發展ヲ攻究スルヲ以テ 目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養 二留意スヘキモノトス 第二條 大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例ト ス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ單ニ一 部ヲ置クヲ得ルモノトス 第三條 學部ニハ研究科ヲ置クヲ得 第四條 大學ハ帝國大學其ノ他官立ノモノノ 外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ私立ト爲スコ トヲ得 第五條 公立大學ハ特別ノ必要アル場合ニ於 テ北海道府縣及市ニ限リ之ヲ設立スルコ トヲ得 第六條 私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス 但シ特別ノ必要ニ因リ學務總長ノ監督下ニ 於テ財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立 スル場合ハ此ノ限ニ在ラス 第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設 備又ハ之ニ要スル資金及少クモ大學ヲ維 持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ 有スルコトヲ要ス 第八條 公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ文部 大臣ノ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同 前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘ シ 第九條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該 大學豫科ヲ修了シタル者高等學校高等科

ヲ卒業タル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依 リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル 者トス 第十條 學位ニ關スル規程ハ文部大臣ノ定 ムル所ニ依リ之ヲ施行スルコトヲ得 第十一條 在學年限ハ醫學科修ムル者ニ在リテ ハ四年以上トス 第十二條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學 科修ムル者ニ在リテハ四年以上其ノ他ノ者 ニ在リテハ三年以上當該學部ニ在學シ其ノ 他相當ノ學力ヲ具ヘタル者ニシテ當該學部 ニ於テ適當ト認メタルモノトス 第十三條 大學ニハ特別ノ必要アル場合ニ於 テ豫科ヲ置クコトヲ得 第十四條 大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ 依リ高等普通教育ヲ爲スヘシ 第十五條 大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二 年トス 第十六條 大學豫科ニ入學スルコトヲ 得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又 ハ學力アリト認メラレタル者トス 第十七條 大學豫科ノ卒業シタル者又ハ文部大 臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力ア リト認メラレタル者トス 第十八條 大學豫科ノ設備、編制、教員及教科 書ニ付テハ高等學校高等科ニ關スル規定ヲ 準用ス 第十九條 大學豫科ノ生徒定數ハ毎年ノ豫科 修了者ノ員數カ其ノ年當該大學ニ收容シ得 ル員數ヲ超過セザル程度ニ於テ之ヲ定ムヘ シ 第二十條 大學及大學豫科ノ學則ハ法令ノ範 圍内ニ於テ當該大學ノ定ムル所ニ依リ之ヲ 定ムヘシ 第二十一條 公立及私立ノ大學ニハ相當員數ノ 專任教員ヲ置クヘシ 第二十二條 私立大學ノ教員ノ採用ハ文部大臣 ノ認可ヲ受クヘシ公立大學ノ教員ニシテ官 吏ノ待遇ヲ受ケザル者ニ付亦同 第二十三條 公立及私立ノ大學ハ文部大臣ノ監 督ニ屬ス 第二十四條 文部大臣ハ公立及私立ノ大學ニ對 シ報告ヲ檢閲シ行ヒ其ノ他監督上必要

ナル命令ヲ爲スコトヲ得 第二十一條 本令ニ依リテ學校ハ勸定規程 二別段ノ定ムル場合ヲ除ク外大學ト稱シ 又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文 字ヲ用ウルコトヲ得 附則 本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際現ニ大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ 大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウル學校ニ ハ當分ノ内第二十一條ノ規定ヲ適用セス

大學規程 大正八年五月二十九日 文部省令第一二九號 昭和八年六月二十九日 文部省令第一三九號 昭和八年七月二十九日 文部省令第一四九號

第一條 公立又ハ私立ノ大學ノ設立ニ付認可 ヲ受ケントスルコトハ左ノ事項ヲ具シ文部 大臣ニ申請スヘシ 一 大學ノ名稱 二 大學院及大學豫科ノ設置 位置 三 校舎ノ圖面及建設ノ設計 四 校舎ノ圖面及建設ノ設計 五 各學部及大學豫科ノ在學者定數 六 各學部主任教員定數 七 各學部主任教員定數 八 各學部主任教員定數 九 經費及維持ノ方法 十 經費及維持ノ方法 十一 經費及維持ノ方法 十二 經費及維持ノ方法 十三 經費及維持ノ方法 十四 經費及維持ノ方法 十五 經費及維持ノ方法 十六 經費及維持ノ方法 十七 經費及維持ノ方法 十八 經費及維持ノ方法 十九 經費及維持ノ方法 二十 經費及維持ノ方法 二十一 經費及維持ノ方法 二十二 經費及維持ノ方法 二十三 經費及維持ノ方法 二十四 經費及維持ノ方法 二十五 經費及維持ノ方法 二十六 經費及維持ノ方法 二十七 經費及維持ノ方法 二十八 經費及維持ノ方法 二十九 經費及維持ノ方法 三十 經費及維持ノ方法 三十一 經費及維持ノ方法 三十二 經費及維持ノ方法 三十三 經費及維持ノ方法 三十四 經費及維持ノ方法 三十五 經費及維持ノ方法 三十六 經費及維持ノ方法 三十七 經費及維持ノ方法 三十八 經費及維持ノ方法 三十九 經費及維持ノ方法 四十 經費及維持ノ方法 四十一 經費及維持ノ方法 四十二 經費及維持ノ方法 四十三 經費及維持ノ方法 四十四 經費及維持ノ方法 四十五 經費及維持ノ方法 四十六 經費及維持ノ方法 四十七 經費及維持ノ方法 四十八 經費及維持ノ方法 四十九 經費及維持ノ方法 五十 經費及維持ノ方法 五十一 經費及維持ノ方法 五十二 經費及維持ノ方法 五十三 經費及維持ノ方法 五十四 經費及維持ノ方法 五十五 經費及維持ノ方法 五十六 經費及維持ノ方法 五十七 經費及維持ノ方法 五十八 經費及維持ノ方法 五十九 經費及維持ノ方法 六十 經費及維持ノ方法 六十一 經費及維持ノ方法 六十二 經費及維持ノ方法 六十三 經費及維持ノ方法 六十四 經費及維持ノ方法 六十五 經費及維持ノ方法 六十六 經費及維持ノ方法 六十七 經費及維持ノ方法 六十八 經費及維持ノ方法 六十九 經費及維持ノ方法 七十 經費及維持ノ方法 七十一 經費及維持ノ方法 七十二 經費及維持ノ方法 七十三 經費及維持ノ方法 七十四 經費及維持ノ方法 七十五 經費及維持ノ方法 七十六 經費及維持ノ方法 七十七 經費及維持ノ方法 七十八 經費及維持ノ方法 七十九 經費及維持ノ方法 八十 經費及維持ノ方法 八十一 經費及維持ノ方法 八十二 經費及維持ノ方法 八十三 經費及維持ノ方法 八十四 經費及維持ノ方法 八十五 經費及維持ノ方法 八十六 經費及維持ノ方法 八十七 經費及維持ノ方法 八十八 經費及維持ノ方法 八十九 經費及維持ノ方法 九十 經費及維持ノ方法 九十一 經費及維持ノ方法 九十二 經費及維持ノ方法 九十三 經費及維持ノ方法 九十四 經費及維持ノ方法 九十五 經費及維持ノ方法 九十六 經費及維持ノ方法 九十七 經費及維持ノ方法 九十八 經費及維持ノ方法 九十九 經費及維持ノ方法 一百 經費及維持ノ方法

第一條 公立又ハ私立ノ大學ノ設立ニ付認可 ヲ受ケントスルコトハ左ノ事項ヲ具シ文部 大臣ニ申請スヘシ 一 大學ノ名稱 二 大學院及大學豫科ノ設置 位置 三 校舎ノ圖面及建設ノ設計 四 校舎ノ圖面及建設ノ設計 五 各學部及大學豫科ノ在學者定數 六 各學部主任教員定數 七 各學部主任教員定數 八 各學部主任教員定數 九 經費及維持ノ方法 十 經費及維持ノ方法 十一 經費及維持ノ方法 十二 經費及維持ノ方法 十三 經費及維持ノ方法 十四 經費及維持ノ方法 十五 經費及維持ノ方法 十六 經費及維持ノ方法 十七 經費及維持ノ方法 十八 經費及維持ノ方法 十九 經費及維持ノ方法 二十 經費及維持ノ方法 二十一 經費及維持ノ方法 二十二 經費及維持ノ方法 二十三 經費及維持ノ方法 二十四 經費及維持ノ方法 二十五 經費及維持ノ方法 二十六 經費及維持ノ方法 二十七 經費及維持ノ方法 二十八 經費及維持ノ方法 二十九 經費及維持ノ方法 三十 經費及維持ノ方法 三十一 經費及維持ノ方法 三十二 經費及維持ノ方法 三十三 經費及維持ノ方法 三十四 經費及維持ノ方法 三十五 經費及維持ノ方法 三十六 經費及維持ノ方法 三十七 經費及維持ノ方法 三十八 經費及維持ノ方法 三十九 經費及維持ノ方法 四十 經費及維持ノ方法 四十一 經費及維持ノ方法 四十二 經費及維持ノ方法 四十三 經費及維持ノ方法 四十四 經費及維持ノ方法 四十五 經費及維持ノ方法 四十六 經費及維持ノ方法 四十七 經費及維持ノ方法 四十八 經費及維持ノ方法 四十九 經費及維持ノ方法 五十 經費及維持ノ方法 五十一 經費及維持ノ方法 五十二 經費及維持ノ方法 五十三 經費及維持ノ方法 五十四 經費及維持ノ方法 五十五 經費及維持ノ方法 五十六 經費及維持ノ方法 五十七 經費及維持ノ方法 五十八 經費及維持ノ方法 五十九 經費及維持ノ方法 六十 經費及維持ノ方法 六十一 經費及維持ノ方法 六十二 經費及維持ノ方法 六十三 經費及維持ノ方法 六十四 經費及維持ノ方法 六十五 經費及維持ノ方法 六十六 經費及維持ノ方法 六十七 經費及維持ノ方法 六十八 經費及維持ノ方法 六十九 經費及維持ノ方法 七十 經費及維持ノ方法 七十一 經費及維持ノ方法 七十二 經費及維持ノ方法 七十三 經費及維持ノ方法 七十四 經費及維持ノ方法 七十五 經費及維持ノ方法 七十六 經費及維持ノ方法 七十七 經費及維持ノ方法 七十八 經費及維持ノ方法 七十九 經費及維持ノ方法 八十 經費及維持ノ方法 八十一 經費及維持ノ方法 八十二 經費及維持ノ方法 八十三 經費及維持ノ方法 八十四 經費及維持ノ方法 八十五 經費及維持ノ方法 八十六 經費及維持ノ方法 八十七 經費及維持ノ方法 八十八 經費及維持ノ方法 八十九 經費及維持ノ方法 九十 經費及維持ノ方法 九十一 經費及維持ノ方法 九十二 經費及維持ノ方法 九十三 經費及維持ノ方法 九十四 經費及維持ノ方法 九十五 經費及維持ノ方法 九十六 經費及維持ノ方法 九十七 經費及維持ノ方法 九十八 經費及維持ノ方法 九十九 經費及維持ノ方法 一百 經費及維持ノ方法

科ノ入學ニ關シ中學校ヲ卒業シタル者ト同 等以上ノ學力アリト認ム 一 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢 定ニ合格シタル者 二 文部大臣ニ於テ一般專門學校ノ入學ニ 關シ中學校ヲ卒業シタル者ト同等以上 ノ學力アリト指定シタル者 三 文部大臣ニ於テ特種ノ專門學校ノ入學 上ノ學力アリト指定シタル者ト同等以 上ノ學力アリト指定シタル者ト得ヘキ大 學ノ學部又ハ學科ニ關シテハ大學ニ於テ學 則中ニ之ヲ定ムヘシ 第七條 大學ハ學則ニ於テ學部ニ入學スル資 格ヲ有スル者ニ就キ入學ノ順位ヲ定ムルコ トヲ得 第八條 同順位ニ在ル學部入學志願者ノ數收 容シ得ヘキ人員ニ超過スル場合ニ於テ行フ ヘキ選抜ノ方法ニ關シテハ大學ニ於テ學則 中ニ之ヲ定ムヘシ 第九條 大學令第十八條ノ規定ニ依リ教員ノ 採用ニ付文部大臣ノ認可ヲ受ケントスルコ トハ其ノ申請書ニ擔任學科日記載シ本人 ノ履歷書及戶籍抄本ヲ添付スヘシ 第十條 大學ノ教育上必要ト認メタルトキハ 在學者ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得 第十一條 學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如 シ 一 學部及大學豫科ノ學科課程ニ關スル事 項 二 研究科及大學院ニ關スル事項 三 學部ノ在學年限及大學豫科ノ修業年限 四 學士ノ稱號ニ關スル事項 五 學士ノ稱號ニ關スル事項 六 學士ノ稱號ニ關スル事項 七 學士ノ稱號ニ關スル事項 八 學士ノ稱號ニ關スル事項 九 學士ノ稱號ニ關スル事項 十 學士ノ稱號ニ關スル事項 十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 二十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 三十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 四十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 五十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 六十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 七十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 八十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十一 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十二 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十三 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十四 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十五 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十六 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十七 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十八 學士ノ稱號ニ關スル事項 九十九 學士ノ稱號ニ關スル事項 一百 學士ノ稱號ニ關スル事項

文 部 省

勅 專 一 一 號

藤 原 下 業 大 學 設 立 ノ 件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 十 四 年 五 月 十 九 日

文 部 大 臣 男 爵 荒 木 貞 夫

内 閣 總 理 大 臣 男 爵 平 沼 騏 一 郎 殿



證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ
第十三條 私立ノ大學ニ關シ文部大臣ニ提出
スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ
附 則
本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(折上リ國定規格 B5 判)